

黒部市 発表
令和5年2月21日(火)

【照会先】

黒部市健康増進課

健康増進課長 平田 千秋

健康増進課班長 島崎 三紀子

電話 0765(54)2111

報道関係者 各位

新型コロナウイルスワクチン接種状況等

1. これまでの接種状況

総接種回数：128,791回 *2月15日時点 VRS(国「ワクチン接種記録システム」)集計

(総接種回数の内訳)

年代区分	接種回数	1回目 (接種率)	2回目 (接種率)	3回目 (接種率)	4回目 (接種率)	5回目 (接種率)	オミクロン株 対応ワクチン (接種率)
65歳以上	56,349	12,246 (95.1%)	12,210 (94.8%)	11,829 (91.9%)	10,962 (85.1%)	9,102 (70.7%)	9,885 (76.8%)
		【92.6%】	【92.4%】	【91.1%】	【—】	【—】	【73.7%】
60～64歳	9,738	2,278 (92.3%)	2,273 (92.1%)	2,157 (87.4%)	1,846 (74.8%)	1,184 (48.0%)	1,624 (65.8%)
50～59歳	17,619	4,885 (90.8%)	4,874 (90.6%)	4,359 (81.0%)	3,042 (56.5%)	459 (8.5%)	3,026 (56.2%)
30～49歳	26,819	8,253 (89.2%)	8,232 (89.0%)	6,426 (69.4%)	3,405 (36.8%)	503 (5.4%)	3,435 (37.1%)
18～29歳	11,874	3,965 (90.1%)	3,942 (89.5%)	2,827 (64.2%)	1,030 (23.4%)	110 (2.5%)	1,172 (26.6%)
12～17歳	4,861	1,659 (77.1%)	1,646 (76.5%)	1,068 (49.6%)	488 (22.7%)		658 (30.6%)
5～11歳	1,425	561 (25.6%)	548 (25.0%)	316 (14.4%)			
		【24.0%】	【23.1%】	【8.7%】			
6ヶ月～4歳	106	52 (4.1%*)	40 (3.2%*)	14 (1.1%*)			
		【3.5%】	【2.9%】	【0.4%】			
合計	128,791	33,899 (84.8%)	33,765 (84.5%)	28,996 (72.5%)	20,773 (56.9%**) (52.0%)	11,358 (33.0%***) (28.4%)	19,800 (54.2%**) (49.5%)
		【81.3%】	【80.3%】	【68.2%】	【—】	【—】	【43.2%】

- ・3～5回目の接種回数にはオミクロン株対応ワクチンの接種回数を含みます。
- ・接種率は、接種回数を分子とし、分母については、R5.2.1時点での年代区分の人口（「合計」に関しては、全人口。但し、*欄は0～4歳人口、**欄は12歳以上の人口、***欄は18歳以上の人口）を用いています。
- ・【 %】は、全国の接種率（国の首相官邸サイト公表値）です。

2. 今後の新型コロナウイルスワクチン接種

来年度の接種方針等について、国の厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会において以下の見解が取りまとめられました。今後は、当部会における取りまとめを踏まえて、分科会で議論を行い、3月上旬までに最終的な結論を得ることとされています。

市においては、国の動向に留意し、今後の新型コロナワクチン接種に向けた体制の構築等について、適切に準備、対応してまいりたいと考えております。

(概要)

予防接種基本方針部会における取りまとめ内容

①接種の目的及び対象者

- ・まずは重症者を減らすことを目的とし、重症化リスクが高い者を対象とするが、それ以外の者に対しても接種の機会を確保することが望ましいことから、全ての者を接種の対象としてはどうか。
- ・小児（5～11歳）及び乳幼児（生後6月～4歳）については、接種できる期間が短かったことから、当面、現在の接種を行うべき。

②接種スケジュール

- ・秋冬に次の接種を行うべきではないか。
- ・ただし、今後の感染拡大や変異株の状況やワクチンの持続期間に係る新たなデータ、諸外国の動向等を踏まえ、重症化リスクが高い者はもとより、健常人であっても重症化リスクの高い者に頻回に接触する者には、秋冬を待たずして行う接種の必要性に留意する必要がある。

③使用するワクチン

- ・現時点においては、今後の新型コロナウイルスの変異の予見が困難であるため、当面の間、オミクロン株対応2価ワクチンを使用することが妥当ではないか。
- ・現在従来型ワクチンを用いている初回接種や、小児及び乳幼児の接種についても、オミクロン株対応2価ワクチンに早急に切り替えていくことが望ましい。
- ・今後、仮に流行株の予測が一定程度可能となれば、流行すると考えられる株の成分のみを含んだワクチンを使用することも考えられる。